

夫妻の夢が叶う場所

喫茶店店主 & お花の先生



喫茶店と一緒に切り盛りする塚田功さんと麻子さんご夫妻



国道17号線をそれて君が代橋方面に下ると、「並榎西」の信号手前、坂の途中のマンション1階に「つかや珈琲」があります。通りに面しているながら段差の死角で、隠れた家的な雰囲気があり、地元の絵本作家による愛嬌のあるロゴマークやアンティーク調の大型ミルが、喫茶店の存在を示しています。ここで夢を叶えるご夫妻がいます。

青春時代に仲間が集った喫茶店。そんな場所を
作りたかった



テーブル席、ソファ席、カウンター席と17席が設置された店内は、70〜90年代の日本の歌謡曲がBGMで流れ、懐かしさとくつろぎのある空間です。

で集った喫茶店のような場所を作りたかったという店主の塚田功さんの想いが込められています。

公共施設の維持管理などを担う事業所の経営者である塚田さんが、自社所有の賃貸マンションを建設する際に、1階に事務所と並んで喫茶店スペースを確保しました。退職後の楽しみではなく、気力も体力も十分な40代のうちに始



厚焼き卵の「たまごサンド」



今回のフラワーアレンジメントのテーマは「春のお庭」。麻子さんが市場で直接仕入れた約20種の花材を使用。新芽が顔を出し、春の息吹を感じる枝物で作るリースをベースに、春の花を盛り付けます。

めたいと、コーヒーやナポリタン等提供するメニューについて本格的に研究を開始し、2016年10月にオープン。今年で8年目を迎えます。「お気に入りの喫茶店が京都にあり、何度か足を運んで、ナポリタンをはじめ納得の味を再現しました」と当時は振り返ります。

「社長業との兼業で週の半分ほど閉店することもあります。店があることで人が訪ねて来てくれる。昔馴染みの同級生たちとの交流も始まり、楽しい時間に恵まれています」と嬉しそうです。

子どもの頃から花好き。フラワーアレンジメント
教室を主宰



塚田麻子さんは子どもの頃から大の花好き。「将来の夢はずっとかわらぬお花屋さんでした。会社員として働きながら、フラワーアレンジメントの勉強を続け、通っていた先生の下で、ブライダル装花の制作やアシスタントなどの経験を積んできました」と、一途な想いを持ち続けてきました。

公益社団法人日本フラワーデザイナー協会講師資格や資格認定試験審査員資格を取



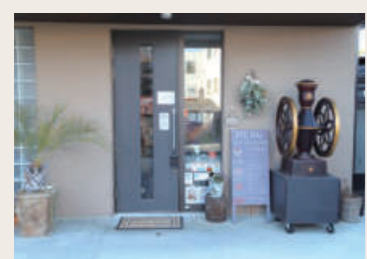
得すると、育児期間中に、自宅や友人のレストラン、公民館などでフラワーアレンジメント教室を開催するようになりました。同時に、自身の勉強も再開し、知識や技術磨きに余念がありません。教室では、移り変わる季節を花器に取り込むようなフラワーアレンジメントで、日々の暮らしに潤いをもたらす提案をしています。

喫茶店という格好の場所があることで、月に1度1テーマで3回に分けて教室を開催できるようにになりました。

作品が仕上がった後は、功さんが淹れたコーヒーや手作りのお菓子で、楽しいおしゃべりタイムが始まります。



球根をつけたままのチューリップやムスカリは春を控えた冬季にしか市場に出ない花材。



つかや珈琲
高崎市並榎町637-42
レヴィーナミエ1F
営業時間：11:00～18:00
(L.O17:30)
定休日：日・月・祝日、他

